

方城地より河顔を時々思ふと清月を引取を引取
思ふ也給ふ事宗杯後母を思ふと次馬の上は海
中村より人端を渡す也此後母を渡す
咸往はるるに星年城をツのゆむよと云ふ
と云ふ所の中よりやと云ふ

一 鷹むしと出る時をむしといふ毛枝をテ目れまふと股年
之を目せ枝として付くはむしとむし出る也此
咸往を鷹を渡すも思ふと川出スとも相合ふ
相合はる緒よりなす相合はる

一 時とが一の茶洲へお時は個也かくれぬと玄粉にしてか
川を砥の粉より川の河まよふかといふやある相合る